

68歳男性 左示指組織欠損

木材加工の機械に左示指を挟まれて受傷した。

【既往歴】 高血圧症

【喫煙歴】 なし

示指尺側の皮膚軟部組織欠損と末節骨・中節骨の部分欠損を認めた

病院の体制

形成外科専門医 1人（卒後12年）

若手形成外科医 2人（卒後6年と卒後3年）

68歲男性 左示指組織欠損



68歳男性 左示指組織欠損



受傷当日は硬組織は局所麻酔下に組織欠損部に人工真皮を貼付した。術中に深指屈筋腱が温存されていることを確認した。

相談項目

- 再建方法は？
- 軟部組織再建の選択肢は？
- 骨欠損に対する治療選択肢は？

ここで相談役の先生方とのディスカッションを行います。

その後に、実際はどのような治療をしたのか報告していただきます。
まだ未治療であれば不要です。

治療の経過

Hemipulp flapを趾間まで延長して挙上し、軟部組織を再建した。



Hemipulp flap 挙上



組織移植



全層植皮

治療の経過

硬組織は骨移植は行わず、DIP関節の鋼線固定のみにとどめた。



その後の経過

術後3ヵ月まで鋼線固定を続けた。

現在術後1年経過し、視診上はDIP関節以遠の偏位はないが、単純Xpでは、わずかに尺側偏位を認める。

皮弁は安定し、1回のdebulkingにより形態は改善した。

示指PIP関節DIP関節の関節可動域制限は残存した。

皮弁採取部は趾間部のつっぱり感と長期歩行時の痛みの訴えがある

その後の経過

